

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	昔とった杵柄事業～「古老の知恵と技」でコミュニティの元気を創る～
対象地域	広島県三次市作木町（ひろしまけんみよししさくぎちょう）（旧双三郡作木村）
対象地域の概要	<p>広島市から北へ80キロ、三次市作木町がある。H16年1市7市町村の合併で新三次市となった。人口は昭和25年7500人を数えたが、現在は1800人を割る。高齢化率も50%を超えようとしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">谷間に保育所小中学校 江の川沿いに集落がひろがる</p>
提案内容の概要	<p>昨年の本事業で多くのむら人と話した。「むらの記憶を残し次代へ繋ぐ」事への期待と重大さを改めて認識した。暮らしの知恵・技の記録と伝承に加え、高齢者の「ここで暮らし続けたい」との思いに応えるために『年金プラス1.5万円』を実現の「ZiZiBaBaビジネス」の実験。『なんでもバス』の運行実験を新規に加える。</p>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>昨年の本事業の取り組みから、以下のような事柄が見えてきた。1800人が暮らす作木町に、700人程の65歳以上が占める。典型的な高齢地域である。しかしその事は必ずしも課題だけではなく「老人一人が無くなる事は、図書館1館を失うに等しい」といわれるように、長年にわたる経験や体験、思いを巡らし工夫する創造性など多くの文化を継承してきた。①問題なのはそう言った地域の暮らしの文化や技が正に今、消えようとしているこの現状が課題となってきた。これら「地域の記憶」を残し伝え、改めて創る営みへと繋げるかどうかが課題であろう。</p> <p>そして一方、②1年1歳以上に体力や気力が落ち萎えてゆく高齢者。既存の「ふれあいサロン」へ行きたいけど集会所まで歩くのが辛い。市民バスもバス停までが歩き辛い。と籠もりがちに。『予防福祉』のサービスが届かないといった現状がある。③後期高齢者医療費の年金からの天引きがはじまり、益々公的年金の手取りが減ってきた。「年金にもう1万5千円ほどあると暮らしが安心なんじゃが」と年金の話はいきつく。④ボランティアでのサービス提供の限界が見え隠れする。『老老介護』地帯ではマンパワーが不足する。他地域からの導入の構想、実現が望まれる。</p> <p>「ともいきのさと（共生の郷）づくり」がこれからの目標である。</p>
(2) 活動内容の案	<p>活動①：古老の聞き取り 聞き書き事業</p> <p>内容：</p> <p>H20では4名の名人さんだけだったが、石工さんや醤油づくり、植林育林・山と木の話、山獺師など「むらの匠」の聞き書きも、昨年に引き続き5名程度進めたい。次年度にはそれぞれの記録を合本とした「静に掬う」を印刷製本して形としたい。</p> <p>また、大学生とともに進める聞き取りを『逆デーサービス』という役割も持って高齢者宅を訪問し、要望の強い軽微な生活支援なども併せて実施する。対象者は700人にのぼるが、本年度は20人程度を予定している。</p> <p>昨年は、作木小・中学校のふるさと授業を担当させていただいた。今年はずっと関わりを深め、小・中学生による『ふるさと巡検ジュニア2009』の実施で、ふるさと作木を知る機会を提供をしたい。4回程度の実施を考える名人さんの技を『出前講座』で披露する事業は引き継ぐが、本年度から三次市より指定管理者の採択を受けた「江の川カヌー公園さくぎ」「川の駅常清」などを会場に『公開講座』の開催を進める。10回程度の開催を目標とする。</p>

活動②：『なんでもバス』の運行実験

内容：

高齢者は、体力の減退、気力の衰退で引きこもりがちになるスピードが速い。日々の生活で意欲を持ち続け、いつでもどこでも低料金で動ける条件整備が必要となるが、現在運行する市民バスは定められたバス停まで出向かなければ乗れないため、自宅からの移動が課題だ。また作木町の外へは、乗り換えないと出向けないが、乗り継ぎの調整などされていないなど不都合が多い。ドアからドアへの配車や目的地でも、希望のお店や個別の医療機関への巡回運用の試行試験なども必要だろう。家庭菜園でできたものを朝市に出したいが、車の運転ができないと朝市の場まで農産物が運べないといった課題がある。診療所の薬の受取りや、食料・日用品の買物の代行などの社会実験を実施して、その可能性を探る。

活動③：『ZiZiBaBa ビジネス』応援事業

内容：

「年金がドンドン減ってきた。月にもう1万5千円から2万円程度実入りがあるとええんじゃが」とむらのお年寄りに多く聞いた。家庭菜園の農作物の浅漬けなどちょっとした加工品。部屋の多くある広い家屋を生かした『農家民泊』の実験なども有効なビジネスだ。暮らしを語るインタープリターになってもらいたいとも考える。もちろん先の『出前講座』や『公開講座』への名人としての仕事も提供したい。またお世話する側が、ロットの小さい事業をいかに組み合わせながら収益に繋がるか、ビジネスになるような試みも実験したい。

活動④：ふるさとコミュニティ形成事業

内容：

H20に引き続き作木出身者に皆さんに「ふるさと作木会」への参加を呼びかけをする。クラス会の開催などの応援も事業化できる試みなども試行する。

応募団体名	株式会社わかたの村
リンク	http://www.wakatanomura.co.jp
部局／担当者名	事務担当 / 木原 貴嗣
連絡先	0824-55-3530
推薦市町村名	広島県三次市